



「遊び 学び 育つひろしまっ子！」育みシート

活用ガイド

令和6年2月
広島県教育委員会

目 次

<はじめに>	1
<u><1 『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート』の活用の前に></u>	
(1)人は遊び、学びながら育っていく	2
(2)乳幼児期における「遊び 学び 育つひろしまっ子！」の育ち	4
<u><2 『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート』の活用></u>	
(1) 『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート』の概要	6
(2) 『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート』の活用によって期待されること	8
(3) 『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート』を使ってみよう！	9
～「育みシート」を活用した見取り・振り返り・保育改善の手順～	
<参考資料>	
ワークシート 例	14
ワークシート	15
『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート』の作成に御協力いただいた先生方	16

<はじめに>

『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート(以下、「育みシート」という。)は、保育者としての経験年数や幼稚園・保育所・認定こども園等の施設類型にかかわらず、目の前にいる子供に、どのような力が育まれようとしているのか、子供の姿をもとに子供理解を深めるとともに、教育・保育の改善につなげるために作成しました。

0歳から18歳までの育ちのつながりの観点からも、乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、その育ちを支えるのが、保育者の子供理解です。

「育みシート」を用いて子供の姿を見取り、子供理解を深めることは、保育者が自身の保育を振り返り、子供が成長する上で必要な経験や保育者の関わり、環境構成の工夫などを考えることにつながり、教育・保育の質を向上させることに寄与します。

子供理解を深め、教育・保育をより良くしていくためのツールの一つとして、「育みシート」を活用いただけたら幸いです。

「育みシート」の活用によって期待されること

- 0歳児から架け橋期までの育ちのつながりを見通すことができます。
- 子供を見取る視点が多様になり、子供理解が深まります。
- 年齢の発達の特徴を踏まえた保育者の関わりを考えることができます。
- 子供理解をベースにした教育・保育における、PLAN(計画)、DO(実践)、CHECK(評価)、ACTION(改善)といった、PDCA サイクルの習慣化が図られます。

※「育みシート」及び「活用ガイド」における「子供」の表記につきましては、文部科学省に準じて、漢字表記に統一しています。

<1 『遊び 学び 育つひろしまっ子!』育みシート』の活用の前に>

(1) 人は遊び、学びながら育っていく

子供の姿を見取り、子供理解を深めるためには、各年齢の発達の特徴を踏まえ、それに即した関わりができていくかどうかという視点をもつことが重要です。

このページでは、0歳児から5歳児までの、「発達の特徴」と「保育者の関わりのポイント」を記載し、乳幼児期の育ちをどのように支えていけばよいのかを見通せるようにしました。

「育みシート」上部にも、「発達の特徴」と「関わりのポイント」を記載していますので、子供の育ちの見取りや保育の振り返りの際に参考にしてください。

発達の特徴

0歳児～

運動機能が著しく発達し、身体的、心情的欲求を満たしてくれた人に対して親しみと信頼感を抱く。

1歳児～

基本的な運動機能や指先の機能が発達し、自分でできることが増えてくる。
自ら体を動かし探索活動が盛んになる。

2歳児～

自我が芽生え、自己主張することが多くなる。
子供同士の関わりが徐々に増えていく。

3歳児～

自分を発揮したくてチャレンジ精神が旺盛になる。
「自分でやりたい」と意欲はあるが、できない時は援助を求めると、「依存」と「自立」が行きつ戻りつする。

4歳児～

相手に対する興味や親しみが増えてきて、自分中心の主張をしながらも、周りの人に関わっていく。
人との関わりの中で多様な感情を味わいながら、相手の気持ちにも気付けるようになる。

5歳児～

互いの良さや特性に気づき、友達関係を形成しながら人間関係が広がり深まっていく。
友達と共通の目的をもって、工夫したり協力したりする。

小学校以降へ



保育者の関わりのポイント

特定の大人との温かなやり取りや愛情豊かなスキンシップが、心の安定につながります。

子供が喜びや楽しさ、安定感や安心感をもてるよう、応答的なやりとりや言葉がけを大切にしましょう。

特定の大人が自分の気持ちに共感し、応えてくれることで、安心して表現し、行動します。

子供が安心して探索活動をしたり、伸び伸びと体を動かして遊んだりできるように見守り、安全面を考慮しながら、必要な援助をしましょう。

自分の思いや欲求を主張し、受け止めてもらうことで、他者を受け入れることができるようになります。

言葉にできないもどかしさ、不安、気持ちの揺れ動きなどを丁寧に汲み取り、「自分でやりたい」という思いや願いを尊重して、子供の思いや行動などを受容することが大切です。

「やったらできた」という充実感や満足感を味わうことが自立の第一歩です。

大人の手が掛からなくなることを子供に求めるのではなく、挑戦しようとしていることを見守り、それぞれの子供の発達に即した受容や励ましなどを行いながら、子供の「やってみたい」という思いを支えていきましょう。

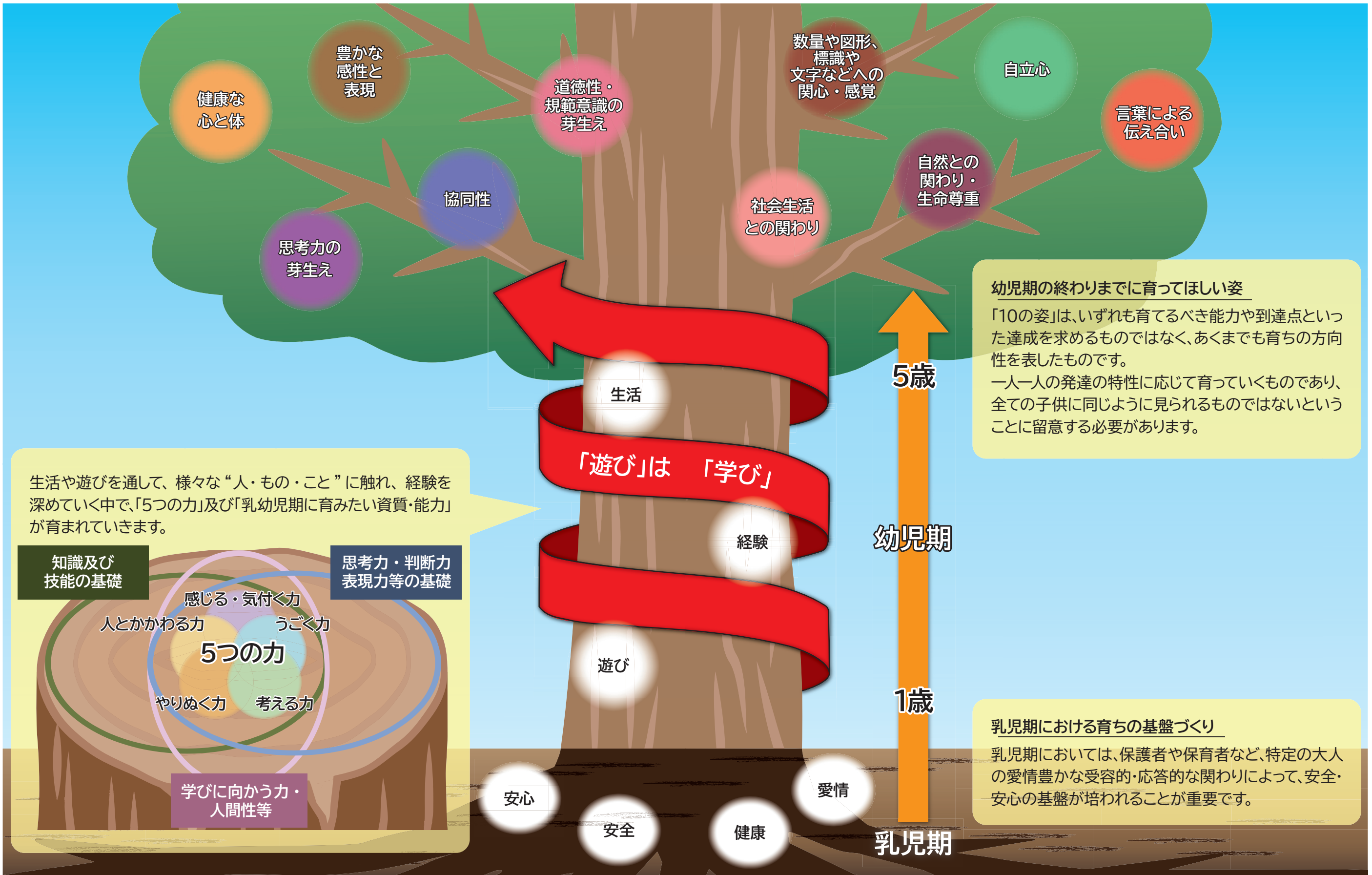
嬉しさや楽しさだけでなく、悔しさや悲しさなど、友達と同じ体験をすることで、同じ気持ちや異なる感情を味わうことができるようになります。

一人一人の子供の感情や思いを十分に受け止め、自己主張のぶつかり合いや葛藤なども大切にし、他者との思いの違いや多様性に気付けるよう、また、人との関わりをもてるよう、援助していきましょう。

他の子供と関わりをもち、一緒に遊ぶ中で、工夫し協力する楽しさを味わえるようになります。

子供同士が目的を共有し、一人では味わえないものに夢中になったり、仲間と力を合わせて工夫し、問題を解決したりするような過程を大切にしましょう。

(2) 乳幼児期における「遊び 学び 育つひろしまっ子！」の育ち



<2 『遊び 学び 育つひろしまっ子!』育みシート』の活用>
 (1) 『遊び 学び 育つひろしまっ子!』育みシート』の概要

《幼児版》
 「遊び 学び 育つひろしまっ子!」育みシート
 広島県教育委員会 乳幼児教育支援センター

このシートは、今、目の前にいる子供の姿をもとに見取り、それにどうすればよいのか、保育者同士が月齢や年齢はあくまでも目安で、その子らしさを認めようとする

「5つの力」と「乳幼児期に育みたい資質・能力」はすべての乳幼児期の力や育ちを支えています。

要領・指針における「乳幼児期に育みたい資質・能力」と、広島県の「5つの力」の方向性は同じであり、遊びを通して総合的に育まれるものです。

3歳児	4歳児	5歳児	小学校以降
<p>発達の特徴 様々なことに挑戦するが、「自立」と「依存」が行きつ戻りつする</p> <p>関わりポイント 挑戦しようとしていることを見守り、「やってみよう」という思いを支える</p>	<p>人に対する興味や親しみが増え、自分中心の主張をしながらも周りの人と関わっていく</p> <p>一人一人の感情や思いを受け止め、他者との思いの違いや多様性に気付けるような援助をする</p>	<p>互いの良さや特性に気付き、人間関係が広がるとともに、深まっていく</p> <p>協同的な活動や人との関わりを通して、一人では味わえない経験を大切に</p>	<p>自覚的な学び</p> <p>主体的・対話的で深い学び</p>
<p>生活習慣が少しずつ自立してくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱、食事、排泄 <p>健康</p> <p>全身を使って、よく動く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外で走り回ったり、跳んだりできることを喜び、三輪車や固定遊具 <p>自分でしようとする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人に見守られながら、みようとすること ・身近な人や友達とやってみようとする <p>人間関係</p> <p>身近な人や友達と過ごす楽しさを感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嬉しい、楽しい、悲しい、悔しいなどの気持ちを身近な人に共感してもらおうとすること、安心すること ・保育者と一緒に遊んだり、他児との関わりを広げたりすることで、友達や周りの人との関わりが楽しくなる <p>生活や遊びの中にもまじりがあることに気付く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なルールのある遊びを友達と一緒に楽しむ ・自分の気持ちを保育者に伝えることができるようになる <p>環境</p> <p>遊びの中で道具の使い方がわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スコップ、ボール、おもちゃ、様々な道具や素材を使って、繰り返し遊びをしながら、楽しんでいく <p>自然に触れて遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の周りの自然や環境と関わりながら、土、砂、動植物など、自然の変化や不思議さに気付く ・自然に触れ、思ったことや感じたことを周りの人と共感し、興味をもって伝え合う <p>色、形、数量などに気付く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色や形を考えながら、積み木、玩具などで遊ぶ ・生活や遊びの中で、色、形、数量などに興味をもち、分けたり集めたりして遊ぶ <p>言葉</p> <p>自分の気持ちを言葉や態度で表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居などの言葉からイメージの世界を楽しむ ・自分の感情や行動などを周りの人へ伝えようとする ・思いを言葉や態度で伝える <p>表現</p> <p>イメージや遊びを共有して楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人と一緒に歌ったり、踊ったりして、遊びや世界観を楽しむ ・様々な素材や道具、おもちゃなどを使って遊ぶ、ものを作ったり、それを使ってなりきったりすることを楽しむ 	<p>基本的な生活習慣が身に付いてくる</p> <p>縄、ボールなどを使うようになる</p> <p>自信を持って行動し、達成感を味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくいかないことがあっても、周りの人に励まされながら、あきらめずに満足いくまで粘り強く取り組む ・当番活動や人のためにできること、自分の長所などを周りの人に認めてもらい、喜びや達成感を味わう <p>友達と共通の目的をもち、楽しさや喜びを味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と楽しさを共有し、アイデアや思い、イメージなどを話し合いながら、考えたり、力を合わせて協力したりする ・自分たちでルールや役割分担を決め、遊びを楽しむ <p>相手を尊重し、気持ちをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや、周りの人の好きなことや得意なことなどに気付き、相手の考えや気持ちを尊重する <p>自然や生命を大切にする気持ちをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事や季節の変化などを楽しむ中で、生命の尊さや自然、宇宙の不思議さなどに気付き、興味や関心をもつ ・身近な動植物の世話をしたり、成長を感じたりする中で、命を大切にしようとする 	<p>互いの良さや特性に気付き、人間関係が広がるとともに、深まっていく</p> <p>協同的な活動や人との関わりを通して、一人では味わえない経験を大切に</p> <p>自信をもって行動し、達成感を味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくいかないことがあっても、周りの人に励まされながら、あきらめずに満足いくまで粘り強く取り組む ・当番活動や人のためにできること、自分の長所などを周りの人に認めてもらい、喜びや達成感を味わう <p>友達と共通の目的をもち、楽しさや喜びを味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と楽しさを共有し、アイデアや思い、イメージなどを話し合いながら、考えたり、力を合わせて協力したりする ・自分たちでルールや役割分担を決め、遊びを楽しむ <p>相手を尊重し、気持ちをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや、周りの人の好きなことや得意なことなどに気付き、相手の考えや気持ちを尊重する <p>自然や生命を大切にする気持ちをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事や季節の変化などを楽しむ中で、生命の尊さや自然、宇宙の不思議さなどに気付き、興味や関心をもつ ・身近な動植物の世話をしたり、成長を感じたりする中で、命を大切にしようとする 	<p>自覚的な学び</p> <p>主体的・対話的で深い学び</p>

各年齢の発達の特徴と保育者の関わりポイントを記載しています。これらを踏まえて、乳幼児期の育ちをどのように支えていけばよいのかを考え、指導計画や保育内容の改善、保育者の援助の振り返りなどの参考にしましょう。

乳児保育の内容の「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」という3つの視点と、3歳以上児の保育における5領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）のねらいや内容に対応しています。

下線太字部分は、その月齢や年齢になると見られる子供の姿を、下線太字部分の下は、より具体的な内容を示しています。実際には、これ以外にも多様な姿があります。一人一人の発達や特性も大切にして、丁寧に見取りましょう。

月齢や年齢は目安で、一人一人の発達の特性や育ちは個々に違います。

子供の姿の背景や今の姿などから子供理解を深め、次の保育におけるねらいや願いをもち、保育実践に生かしましょう。

架け橋期

← 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (文部科学省ホームページ)

《幼児期の終わりまでに育ってほしい姿》

- 健康な心と体**
 - ・生活の流れを見通したり、安全に気を付けたりして行動する
 - ・運動遊びの楽しさに触れ、身体能力を伸ばす
- 協同性**
 - ・自分の力を発揮しながら、教師や友達と協力し、生活したり学び合ったりする
- 道徳性・規範意識の芽生え**
 - ・身近にいる人の気持ちを考え、温かい心で接し親切にする
 - ・自分の振る舞いを振り返りながら、約束やまじりを守る
- 社会生活との関わり**
 - ・身の回りの様々な人や施設等に興味や関心をもち、調べたり体験したりしながら、学校や地域への親しみをもち、関わりを深める
- 思考力の芽生え**
 - ・ものの性質や仕組みなどに興味や関心をもち、友達と協力して考えたり試したりしながら、問題を解決しようとする
- 自然との関わり・生命尊重**
 - ・動植物や季節の移ろいなど、身近な自然に関心をもち、それらに関わりながら、命あるものを大切にする気持ちをもつ
- 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚**
 - ・日常生活にある数量、図形等について、具体物の操作などを通して考えたり表現したりする
- 言葉による伝え合い**
 - ・いろいろなお話を聞いたり、いろいろな本を読んだりして、読書に親しむ
 - ・自分の伝えたいことや相手の状況に応じて、言葉や表現を工夫して話したり書いたりする
- 豊かな感性と表現**
 - ・話し合いを通して、互いの思いや考えを受け止めたり認め合ったりする
 - ・手や体全体の感覚を働かせ、身近な材料や用具を使って、絵や工作などの活動を楽しむ
 - ・曲想を感じ取って表現を工夫しながら歌ったり、演奏したりする

乳児版と幼児版でシートは分かれています。育ちは0歳からつながっています。

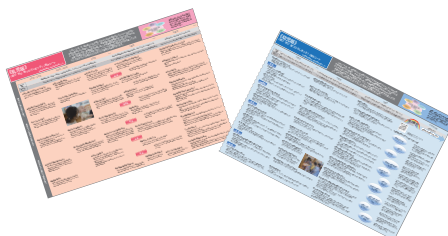
乳児版は3つの視点をもとに見られる姿を挙げています。

(2) 『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート』の活用によって期待されること

子供理解の深まり × 振り返りの習慣化 = 園・所の活性化 → 保育の改善

0歳児から架け橋期までの育ちのつながりを見通すことができる

「育みシート」は、乳児版、幼児版の2枚に分かれており、それぞれ0歳児から2歳児、3歳児から架け橋期までの生活や遊びの中で見られる子供の姿を記載しています。この子供の姿は、広島県教育委員会が発行している『遊び 学び 育つひろしまっ子！』教育・保育実践事例集（平成30年3月発行）の、「生活や遊びの中で見られる具体的な姿」を主に参考にしており、要領・指針等が示している5領域のねらいや内容にも対応しています。0歳児から架け橋期までのおおよその育ちを踏まえたものとなっているため、育ちのつながりを見通すことができます。



子供を見取る視点が多様になり、子供理解が深まる

この「育みシート」を使った子供の見取りに、正解はありません。

例えば、保育カンファレンスなどで、保育者同士の見取りを共有し、自分にはない視点に触れたり、新たな発見をしたりすることで、多様な視点があることに気付くでしょう。それは、自分の保育を多面的に見つめ直すことにもつながります。互いに学び合いながら子供理解を深めていくことが大切です。

年齢の発達の特徴を踏まえた保育者の関わりを考えることができる

「育みシート」の上部には、月齢や年齢における「発達の特徴」及び「関わりポイント」を記載しています。子供の姿を見取る時に、この内容を参考にすることで、「育みシート」中央の子供の具体的な姿だけでなく、発達の特徴を踏まえた保育者の関わりを考えることができます。

子供理解をベースにした教育・保育のPDCAサイクルの習慣化が図られる

「育みシート」を活用した子供の姿の見取りをベースに、保育内容や環境構成等を見直し、新たな指導計画を立て、再び実践をすることは、教育・保育におけるPDCAサイクルを循環させることにつながります。そして、それを繰り返すことによって、PDCAサイクルの習慣化が図られます。

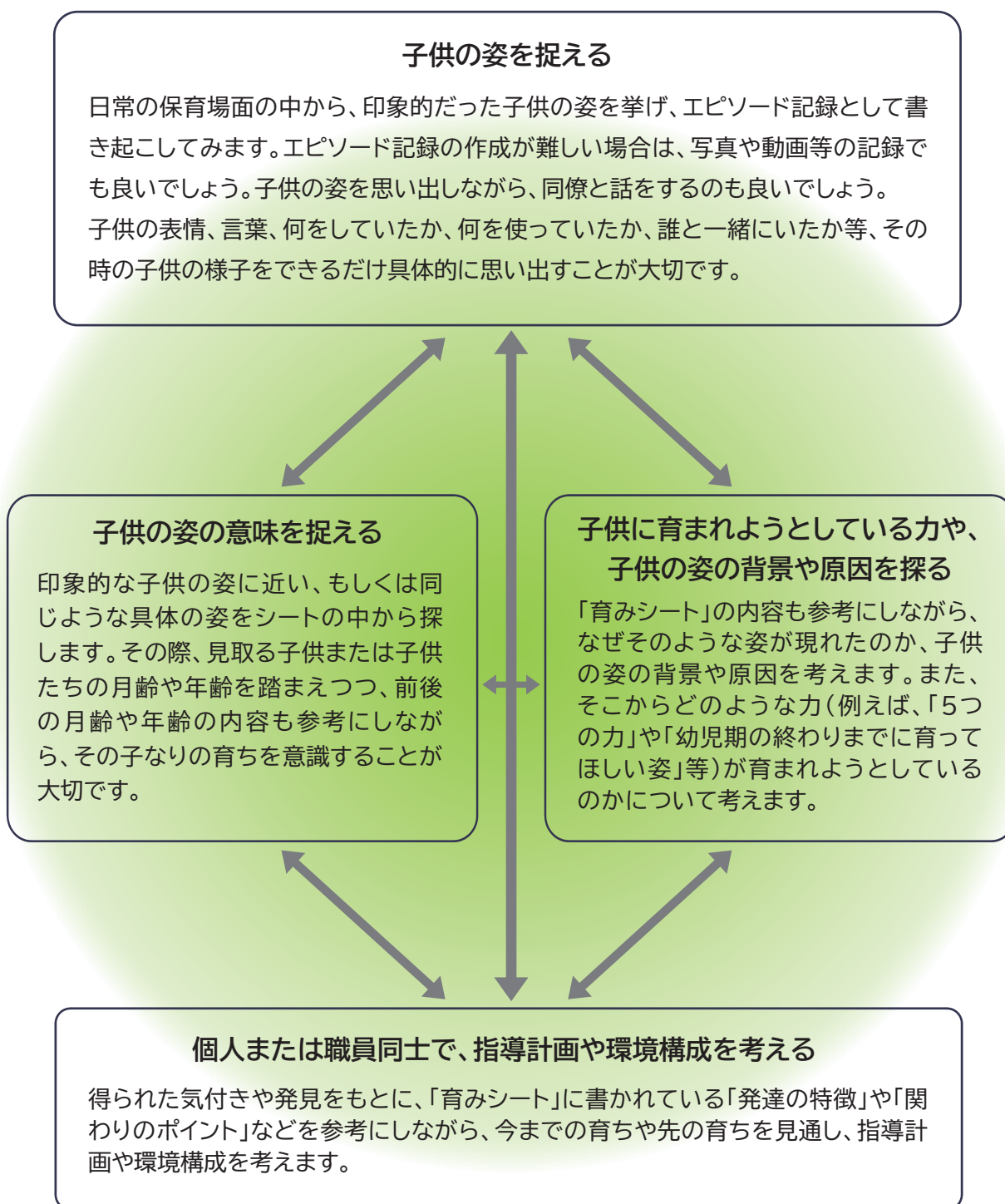
「育みシート」を使った子供の見取りは、

- ・保育者個人の振り返り
- ・園・所等での保育カンファレンス
- ・幼保小連携・接続において乳幼児期からの育ちがどのようにつながっているかについて考える場 等



子供理解を深める様々な場面での活用が可能です。

(3) 『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート」を使ってみよう！
～「育みシート」を活用した見取り・振り返り・保育改善の手順～



見取りの手順は、一通りではありません。
また、それぞれの手順を往還することで見取りが深まっていくため、各項目を矢印でつないでいます。
見取りの際は、個人及び所属園・所等が実施しやすい手順で進めてください。

見取りの手順の例

①子供の姿を捉える

エピソード記録の中で、特に印象的なことや、「育ちにおいて大切な姿だ」と思う箇所を下線を引きます。

1歳8か月のエピソード記録 「あれ？影ないね」

やわらかな朝の陽射しが保育室に降り注ぎ、子供たちが、風に揺れる窓際のカーテンの影を見つめている。手で押さえてみたり、影を捕まえようとしていたりして、揺れるカーテンに隠れたり現れたりする影を、興味津々で見ている。

影がなくなると不思議そうに、「あれ？」と、どこに行ったかを探したり、「ないね、ないね。」と、なくなった影を確認しようとしていたりする姿が見られる。

「Aちゃんの手の影も映っているよ」と声をかけると、A児(1歳8ヶ月)は、不思議そうに手を動かし、自分の手の影ができたことを発見し、確かめている。みんなも、それぞれ自分の手を動かし、手の影を追ってみる。

風が吹いて影ができると、顔を見合わせて笑い合い、「やったー！」と喜んで、カーテンの影の動きをじっと見ている。カーテンの動きによってできる影の動きが面白く、影が動くのを追うように手で押さえたり、腹這いになって体で影を全部隠そうとしていたりしている。

一人の子供が影を隠そうとすると、まねをして同じように手を当てたり、寝転んで影を隠したりしてはしゃぎ、みんなで影を隠そうとしている。

「不思議だね。なくなったね。」と声をかけてみると、みんなで顔を見合わせ、笑い声がたくさん出てくる。

みんな、影を隠すことに夢中になっている。



床に映る黒い影に気が付いて、ずっと目で追っていたのが印象的だった。

A児は、それまで影に気付いていなかったけど、保育者が声をかけたことで、みんなと同じように影を確かめていた。

最初は影を探していたのに、途中から影を隠そうとすることに変わった。しかも、手だけでは隠れなくて、体を使い始めたのは驚いた！

最後はみんなで笑い合い、楽しそうだった。

②子供の姿の意味を捉える

①で下線を引いた箇所に該当する姿を、「育みシート」の中から探します。その際、見取る子供の月齢や年齢を目安にしつつ、前後の月齢や年齢の具体的な姿も参考にします。

1歳児	2歳児
基本的な運動機能や指先の機能が発達し、自分でできることが増えてくる	自我が芽生え、自己主張することが多くなる
安心して探索活動をしたり、伸び伸びと体を動かして遊んだりできるような環境構成を整える	「自分でやりたい」という思いや願いを尊重して、適切な気持ちで受容する
<p>健康</p> <p>ゆったりとした雰囲気の中で食事を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の生活リズムやペースに応じた食事で、食べたい気持ちを尊重してもらいながら、食べることを楽しむ 食べ物の好き嫌いが始めるが、自分の好きなものは、進んで食べようとする <p>自分の意思で移動することを喜び</p> <ul style="list-style-type: none"> つかまり立ちや、つたい歩き、手押し車などを使得って、自分で動くことを楽しむ 高い所に登ろうとしたり、障害物をまたいだりするなど、全身を使う動きに挑戦し始める <p>自我の芽生えと広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分がやりたいこと、やったことを身近な人に発表、共感してもらうことで、安心感や自己肯定感を得る <p>人間関係</p> <p>満足感を味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> 積み木を積み上げた時などに、「自分でできた」という表情を見せ、それを受容してもらうことで、繰り返しを楽しむ <p>環境</p> <p>周りに関わりあうとする</p>	<p>1日の生活の流れに見通しをもつようになる</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な大人に励ましてもらったり、一部手伝ってもらったりしながら、食事、衣服の着脱、おもちゃの片付けなどの身の周りのことを自分ですらうとする <p>身体を動かすことを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の興味や関心に応じて自由に歩く、走る、跳ぶなど十分に体を動かす 遊具を使った遊びを楽しむ <p>安心して行動する</p> <ul style="list-style-type: none"> 受容的、応答的な関わりを支えられて自分がやりたいことをする 保育者が安全に配慮しながら見守り、やりたい気持ちを認め、支えてくれる中で、安心して様々なことに自ら関わろうとする <p>友達の存在を意識し始める</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びを共にする中で、友達に興味や関心、また親しみをもち、自ら関わろうとする 保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ 自分の思いを主張しながら、友達と衝突したり葛藤したりする <p>身近な自然物に気付き、親しみをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育者と共に様々な生き物や草花に出会い、見たり触ったりするなど、興味をもって関わる 保育者の優しい問いかけや関わりの中で、自然や生き物も大切だと気付くようになる <p>身近なものの違いに気付く</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で色や形の違いに気付き、集めたり分けたりしながら遊ぶ 保育者や友達とのやり取りの中で、食材や植物などに興味をもち、大きさや形、量の違いなどに気付く

③子供に育まれようとしている力や、子供の姿の背景や原因を探る

エピソード記録と「育みシート」の内容を見比べながら、この場面で子供にどのような力が育まれようとしているのか、また、そのような姿が見られた背景や原因は何かを探り、保育者の関わりについて考えます。

1歳8か月のエピソード記録「あれ？影ないね」

やわらかな朝の陽射しが保育室に降り注ぎ、子供たちが、風に揺れる窓際のカーテンの影を見つめている。手で押さえてみたり、影を捕まえようとしていたりして、揺れるカーテンに隠れたり現れたりする影を、興味津々で見ている。

影がなくなると不思議そうに、「あれ？」と、どこに行ったかを探したり、「ないね、ないね。」と、なくなった影を確認しようとしていたりする姿が見られる。

「Aちゃんの手の影も映っているよ」と声をかけると、A児(1歳8ヶ月)は、不思議そうに手を動かし、自分の手の影ができたことを発見し、確かめている。みんなも、それぞれ自分の手を動かし、手の影を追っている。

風が吹いて影ができると、顔を見合わせて笑い合い、「やったー！」と喜んで、カーテンの影の動きをじっと見ている。カーテンの動きによってできる影の動きが面白く、影が動くのを追うように手で押さえたり、腹這いになって体で影を全部隠そうとしていたりする。

一人の子供が影を隠そうとすると、まねをして同じように手を当てたり、寝転んで影を隠したりしてはしゃぎ、みんなで影を隠そうとしている。

「不思議だね。なくなったね。」と声をかけてみると、みんなで顔を見合わせ、笑い声がたくさん出てくる。

みんな、影を隠すことに夢中になっている。



感じる・気付く力

人とかがわる力

うごく力

<p>自らの理生えと伝わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分がやりたいこと、やったことを身近な人に受容、共感してもらうことで、安心感や自己肯定感を得る 	<p>友達との存在を意識し始める</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びを共にする中で、友達に興味や関心、また親しみを持ち、自ら関わろうとする 保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ 自分の思いを主張しながら、友達と衝突したり葛藤したりする
<p>人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のことは自分でしたいという思いが強くなり、それが伝わらなかった時には、泣いたり、激怒を起こしたりする 	<p>身近な自然物に気付き、楽しみをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育者と共に様々な生き物や植物に出会い、見たり触ったりするなど、興味をもって関わる 保育者の楽しい問いかけや関わりの中で、自然や生き物も大切だと気付くようになる
<p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で移動することで獲得力が上がり、人やものの出入りが増えていくにつれ、興奮活動が盛んになる 	<p>身近なものの違いに気付く</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で色や形の違いに気付き、集めたり分けたりしながら遊ぶ 保育者や友達とのやり取りの中で、食料や植物などに興味を持ち、大きさや影、量の違いなどに気付く
<p>周囲のものに関わろうとする</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な大人に見守られていることを確認しながら、興味や関心があるものの方へ自分から向かっていき、触れたり遊んだりする ゆったりとした雰囲気の中で絵本を読んでもらうことを喜ぶ 	<p>思いや感情を言葉にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 「これはなあに？」など、自分の興味や関心があるものやことについて尋ねる 「嬉しかったよ」などの感情を言葉や態度で伝える 身近な人についてほしいことや、自分でやりたいことなどの思いを受け止めてもらいながら、言葉や態度で表し、やり取りを楽しむ
<p>言葉が少しずつ増えてくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ハイハイ」や「よういり」など、生活に必要な言葉や行動が、少しずつ増えついていく 	<p>ごっこ遊びを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で、イメージをもちながら道具などを使い、周りの人と言葉のやり取りを楽しむ 周りの大人と同じもので遊び、会話などをする中で、言葉の意味が分かるようになっていき、言葉を使うことを楽しんでいく
<p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な大人に自分の思いや、やったことを伴ってもらうことで、声や言葉、身振りで伝えるようになる 	

事例からの引用

- ・「Aちゃんの手の影も映っているよ」と声をかけると、A児(1歳8ヶ月)は、不思議そうに手を動かし、自分の手の影ができたことを発見し、確かめている。
- ・影が動くのを追うように手で押さえたり、腹這いになって体で影を全部隠そうとしていたりしている。

シートからの引用



保育者A

周りのものに関わろうとする

- ・身近な大人に見守られていることを確認しながら、興味や関心があるものの方へ自分から向かっていき、触れたり遊んだりする

「私が声をかけたことで影の変化や違いに気付くことができたのかな？」
「手や体を使って全身で動いたり、自分から影に向かっていったりしている！」

事例からの引用

- ・顔を見合わせて笑い合い、「やったー！」と喜んで、
- ・まねをして同じように手を当てたり、寝転んで影を隠したりしてはしゃぎ、みんなで影を隠そうとしている。

シートからの引用



保育者A

友達との存在を意識し始める

- ・生活や遊びを共にする中で、友達に興味や関心、また親しみを持ち、自ら関わろうとする

「友達のまねをしたり、顔を見合わせて笑い合ったりする姿が、最近増えてきているのは、少しずつ友達との存在を意識し始めているのね！」

④個人または職員同士で、指導計画や環境構成を考える

①～③までに得られた気づきや発見をもとに、「育みシート」に書かれている育ちを俯瞰し、指導計画や環境構成を考えます。

「育みシート」(乳児版)からの引用

自我の芽生えと広がり

・自分がやりたいこと、やったことを身近な人に受容、共感してもらうことで、安心感や自己肯定感を得る
満足感を味わう

・自分で移動することで視界が広がり、人やものとの出会いが増えていくにつれ、探索活動が盛んになる
周りのものに関わろうとする

・身近な大人に見守られていることを確認しながら、興味や関心があるものの方へ自分から向かっていき、触れたり遊んだりする

語彙が少しずつ増えてくる

・身近な大人に自分の思いや、やったことを代弁してもらうことで、声や言葉、身振りで伝えるようになる

友達の存在を意識し始める

・生活や遊びを共にする中で、友達に興味や関心、また親しみをもち、自ら関わろうとする

保育カンファレンスにおける、保育者の発言例



保育者A

「確かに、今は活発に動けるようになって、周りのものに関わろうとする姿が増えてきています。今回、カーテンの動きに目を留めたというのも納得。」

「そうだね。子供の変化や違いに気付いて、保育者が声をかけるっていうことが大事だね。それが、受容的・応答的な関わりということなんじゃないかな。」



保育者B



保育者C

「そういった関わりを意識するためには、子供の姿から、今どんなことに興味をもって、何を楽しんでいるのかを読み取って、それを言葉にして声をかけることも、引き続きやっていくといいわね。」



保育者A

「そうなんです！だから、今度、形の違いに気付いてもらおうと思って、身近なもので影遊びをしようと思っているんですけど、どうですかね？」

「僕は『勝手に物が動く』ことにも興味をもったんじゃないかと思ったよ。」



保育者D



保育者A

「確かに、そこも楽しいと感じたのかもしれないですね！
例えば、風で動く落ち葉を遊びに使うとか？外でなら体を使った影遊びもできるかも？」

「そもそも、その時に物や形の変化が楽しかったのは、一人ではなかったことが、大きなキーポイントのような気がするんですけど…。もしかしたら、他のこともそうかもしれないけれど、一人で遊んでいるときでも、子供たちって常に保育者や友達を意識していますよね？
そこで、保育者がねらいや願いをもって、声をかけたり、子供同士の遊びをつなげたりすることで、友達の存在を意識し始めることにもつながりそうじゃないですか？」



保育者B



保育者A

「そうですね。私だけでは見えなかった視点がたくさん見えてきました！
次は影遊びも形や変化を楽しみながら、友達と関わられるような環境構成を考えてみます！」



今までは、今は、次は、確かに、だから、他には、例えば、もしかしたら～かもしれない、そもそも、等の、話し合いを深めるための言葉を用いて、子供の姿の背景や原因を探りながら、保育カンファレンスを行うことで、子供理解から保育内容の改善・実践につなげていきましょう。

< 参考資料 >

10～12ページ「見取りの手順の例」の①～④において、記入されたワークシート記入例
及びワークシート

ワークシート 例

○年△月□日 [1]歳児 (11月) 場面 あれ?影ないね

○子供の姿を捉える ※エピソード記録、写真、動画、記憶等を用いて、印象的だった子供の姿を挙げる。 ※特に印象的なことや、「育ちにおいて大切な姿」と思うことはできるだけ具体的に思い出す。	○子供の姿の意味を捉える ※印象的な子供の姿に該当するものを「育みシート」の中から探す。	○子供に育まれようとしている力や、姿の背景や原因を探る ※この場面で子供にどのような力が育まれようとしているのか、また、そのような姿が見られた背景や原因は何なのかを探り、保育者の関わりは適切であったのかについて考える。	○指導計画や環境構成を考える 得られた気づきや発見をもとに、「育みシート」に書かれている先の育ちを見通しながら、次の指導計画や環境構成を考える。
<p>やわらかな朝の陽射しが保育室に降り注ぎ、<u>子供たちが、風に揺れる窓際のカーテンの影を見つめている。手で押さえてみたり、影を捕まえようとしてみたり、揺れるカーテンに隠れたり現れたりする影を、興味津々で見ている。</u></p> <p><u>影がなくなると不思議そうに、「あれ?」と、どこに行ったかを探したり、「ないね、ないね。」と、なくなつた影を確認しようとしてみたりする姿が見られる。</u></p> <p><u>「Aちゃんの手の影も映っているよ」と声をかけると、A児(1歳8ヶ月)は、不思議そうに手を動かし、自分の手の影ができたことを発見し、確かめている。みんなも、それぞれ自分の手を動かし、手の影を追ってみる。</u></p> <p>風が吹いて影ができると、<u>顔を見合わせて笑い合い、「やったー!」と喜んで、カーテンの影の動きをじっと見ている。</u>カーテンの動きによってできる影の動きが面白く、<u>影が動くのを追うように手で押さえたり、腹這いになって体で影を全部隠そうとしてみたりしている。</u></p> <p>一人の子供が影を隠そうとすると、まねをして同じように手を当てたり、寝転んで影を隠したりしてはしゃぎ、<u>みんなで影を隠そうとしている。</u></p> <p><u>「不思議だね。なくなつたね。」と声をかけてみると、みんな顔を見合わせ、笑い声がたくさん出てくる。</u></p> <p>みんな、影を隠すことに夢中になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で移動することで視界が広がり、人やものとの出会いが増えていくにつれ、探索活動が盛んになる ・「これはなあに?」など、自分の興味や関心があるものやことについて尋ねる ・身近な大人に自分の思いやしたことを代弁してもらうことで、声や言葉、身振りで伝えるようになる ・自分がしたいこと、したことを身近な大人に受容、共感してもらうことで、安心感や自己肯定感を得る ・身近な大人に見守られていることを確認しながら、興味や関心がある方へ自分から向かっていき、触れたり遊んだりする ・生活や遊びを共にする中で、友達に興味や関心、また親しみをもち、自ら関わろうとする ・保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ ・自分の興味や関心に応じて自由に歩く、走る、跳ぶなど、充分に体を動かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近活発に動き回るようになって、いろいろなものに興味津々だった ・動くカーテンの影を見付け、不思議さを感じる 「感じる・気付く力」 ・一緒に探す楽しさをみんなで味わう 「人とかかわる力」 ・保育者が「Aちゃんの影も映っているよ」と声をかけた。 ・保育者の言葉で、自分の手の影ができていることに気づき、動かして確かめている 「考える力」 ・影の不思議さを楽しむ 「感じる・気付く力」「うごく力」 ・近くに友達が3名おり、同じように影に興味を示していた ・みんなで一つのことを楽しみ、喜びを共感する 「人とかかわる力」 	<ul style="list-style-type: none"> ・面白い発見をしている姿を見守りたい →保育者が環境とそれに関わる子供たちの心情や行動に気づき受容的・応答的な関わりをする ・保育者の発見を伝えて、遊びの面白さを広げたい →まずは、子供たちの興味や関心がどこにあるかを見取することを大切にする ・影や形の面白さ、不思議さを楽しめる環境作り →身近なもので影遊びなど ・友達と一緒に楽しいという気持ちを育みたい ・友達と共感し合う体験をしてほしい →子供同士をつなぐために、保育者が仲介役となって一緒に楽しむ →自然に動くものをみんなで見付ける →自分や友達の影を探す、影を見ながら体を動かして遊ぶ、など

それぞれの項目を往還しながら、話し合いを深めていく

年 月 日 []歳児 (月) 場面			
○子供の姿を捉える ※エピソード記録、写真、動画、 記憶等を用いて、印象的だった 子供の姿を挙げる。 ※特に印象的なことや、「育ちに おいて大切な姿」と思うことは できるだけ具体的に思い出す。	○子供の姿の意味を捉える ※印象的な子供の姿に該当する ものを「育みシート」の中から探 す。	○子供に育まれようとしている 力や、姿の背景や原因を探る ※この場面で子供にどのような 力が育まれようとしているの か、また、そのような姿が見られ た背景や原因は何なのかを探 り、保育者の関わりは適切であ ったのかについて考える。	○指導計画や環境構成を考 える 得られた気づきや発見をもと に、「育みシート」に書かれてい る先の育ちを見通しながら、 次の指導計画や環境構成を考 える。

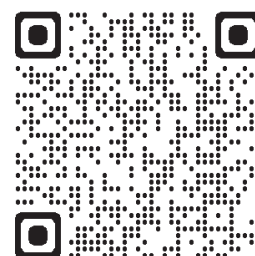
『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシート』の作成に御協力いただいた先生方

「育みシート」の作成に当たり、御指導いただきました有識者の先生方や関係者の皆様に、心より感謝いたします。

秋田 喜代美	学習院大学文学部教授 東京大学名誉教授
朝 倉 淳	広島大学名誉教授
今井 むつみ	慶應義塾大学環境情報学部教授
内田 伸子	IPU・環太平洋大学次世代教育学部教授 お茶の水女子大学名誉教授
高月 教恵	新見公立大学健康科学部特任教授 福山市立大学名誉教授
七木田 敦	広島大学大学院人間社会科学部研究科教授
橋本 信子	安田女子短期大学保育科教授
日高 陵好	県立広島大学保健福祉学部教授
無 藤 隆	白梅学園大学名誉教授

※所属及び役職は、令和5年3月時点
(五十音順、敬称略)

「育みシート」を用いた園・所内での研修の際は、
「幼児教育アドバイザー訪問事業」を御活用ください。
「幼児教育アドバイザー訪問事業」については、右の
QRコードからご覧になれます。



『遊び 学び 育つひろしまっ子!』育みシート』活用ガイド

令和6年2月
広島県教育委員会

〒730-8514 広島市中区基町 9-42
広島県教育委員会事務局学びの変革推進部
乳幼児教育支援センター
電話 082-513-4978

E-mail kyoyoujic@pref.hiroshima.lg.jp



